

試合審判規定・少年規定の申し合わせ事項

- (1) 「講道館柔道試合審判規定（平成13年6月4日改正）・少年規定」に基づいて、審判をお願いします。
- (2) 以下の項目について「取り扱い統一条項」、及び「審判マニュアル」の内容に従って、次のような判断を下してください。
 - ① 「相手の後ろ襟、背部を握ること。」 ※後ろ襟を握ることは認める。
 - ② 「いきなり相手の足（又は脚）をとること。」
※片手で襟、又は袖を握っている状態から、相手の足（又は脚）をとって技を施すことは認める。
 - ③ 背部を握った状態から瞬時的（1～2秒程度）に技をかけることは認められるが、1～2秒たってケンケン内股等から連絡変化した技については、その時点で「待て」をかけ、瞬時に投げたとしても技の効果を認めないので、素早い対応をお願いします。
- (3) 規定第24条については、条文通り適用します。
(団体戦と個人戦は一連の試合の扱いとはしません。)
- (4) 束ねた髪の手直しについて、罰則はありません。
- (5) 試合における「礼法」は、「取り扱い統一条項」、及び「審判マニュアル」の内容に従って行ってください。試合場外における「礼」の義務はありません。
- (6) 軽微な負傷（爪、出血）については、各試合場に爪切り、ティッシュペーパー、テープが配備されておりますので、審判員から直接、選手に渡し、本人に処置させて下さい。救護要請は審判員が判断し、各試合場主任が対応しますので、お申し出下さい。
- (7) 出血の状況によっては、ドクターを要請して下さい。止血できなくてドクターストップがかかった場合は、相手の「棄権勝ち」になります。
- (8) 重度の負傷があった場合には、審判判断でドクターを要請して下さい。
- (9) コンタクトレンズが外れた場合、速やかな対応（本人が付け直すか、外したまま行うか）を行わせて下さい。
- (10) 反則について、団体戦は「注意以上」、個人戦は「指導以上」を合議（アイコンタクトを含む）によって適用します。試合進行の妨げにならぬよう、迅速かつ適切にご配慮をお願いします。
- (11) 絞技の見込み「一本」については、選手の状態や状況をよく判断した上で、十分に見極めをして取り扱って下さい。
- (12) 選手の呼び出しにあたっては、呼び出しても選手がいない場合、試合場主任までお申し出下さい。タイマー始動後、場内放送で1分間隔で2回放送します。試合場のタイマーで3分経過しても登場しない場合は、「失格」となります。

- (13) 試合者の柔道衣の適否の確認は、計量時において、あらかじめ指名された係役員によって点検し、合格者の柔道衣に検印がされていますが、最終的には、その試合を担当する審判員によるチェックをお願い致します。
- (14) 団体戦の試合に臨む際、選手を試合場外で整列させ、主審が指示してから試合場内開始線に進ませる。試合終了後、対象の選手が、試合場外に出てから全員を整列させ、主審が指示をして、チーム全員を試合場内開始線まで進ませ終了の礼を行わせる。なお、選手紹介のある試合（団体、個人ともに）については、審判員紹介までの放送が終わってから、試合場内開始線に進ませる。試合中の服装の乱れを正すため正座をさせるときは、試合開始線に正座させる。
- (15) 審判に対して、監督、コーチからの抗議は認めません。

審判員割り当てについて （審判員割り当て表参照）

- (1) 自分の都県の試合審判を行わないことを原則とします。試合進行上、自分の都県の選手の審判にあたった場合は副審として交代を行って下さい。
- (2) 男女団体戦、男子個人戦ともに、決勝戦は、指名審判として、放送で連絡します。
- (3) 審判員に欠員が生じた場合は、大会本部より、補充審判員を充当します。

審判員の服装について

審判員は、定められた公認審判員の服装（夏服）をお願いします。

半袖Yシャツ、グレーのズボン、黒の靴下、左胸にライセンスエンブレムを付けてください。

連絡事項

- (1) 受付時、IDカードを発行します。受付を済ませてから試合会場にご移動ください。
- (2) 昼食、休憩は、両日とも1階会議室でおとりください。（食事券は発行していません。直接、研修室においでください。）
- (3) 審判員席は各試合場6席（次回審判員席、待機審判員席）用意してあります。試合審判に影響のないよう、ご待機、ご準備のほどよろしくお願い致します。
- (4) 館内は2階観覧席も含め、素足での活動となっております。スリッパは、ご用意しませんので、ご了承ください。
- (5) 9日（火）10日（水）とも、8：30より1階研修室で審判員打ち合わせを行います。